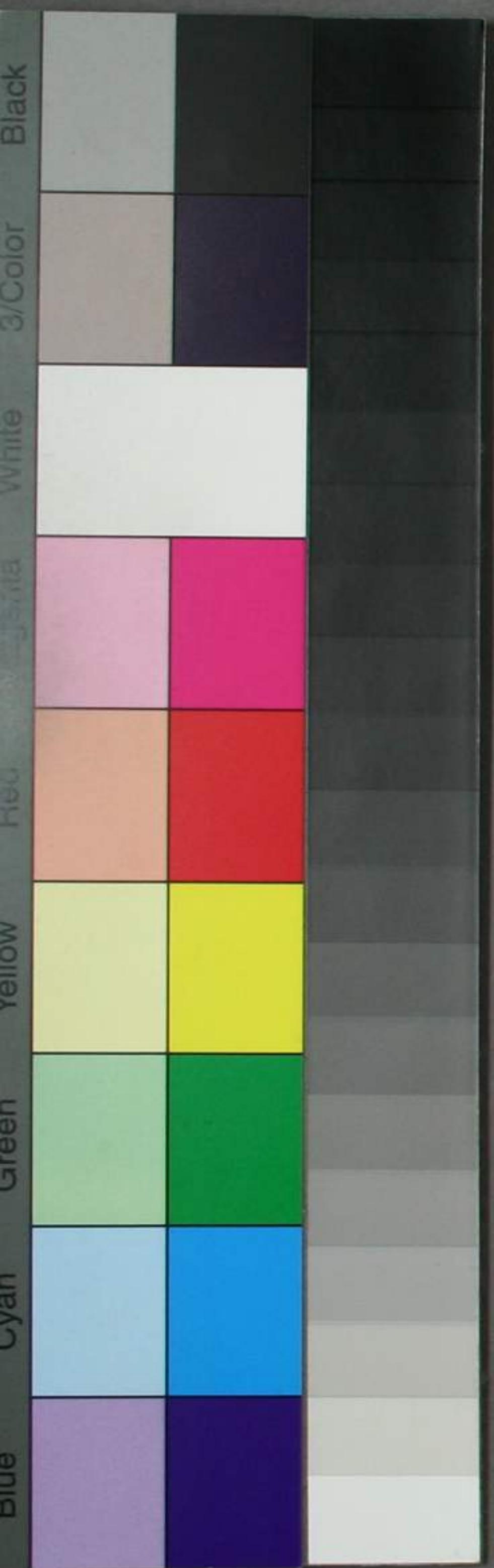


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

13
3263
4

日本大藏經

大福新長者故

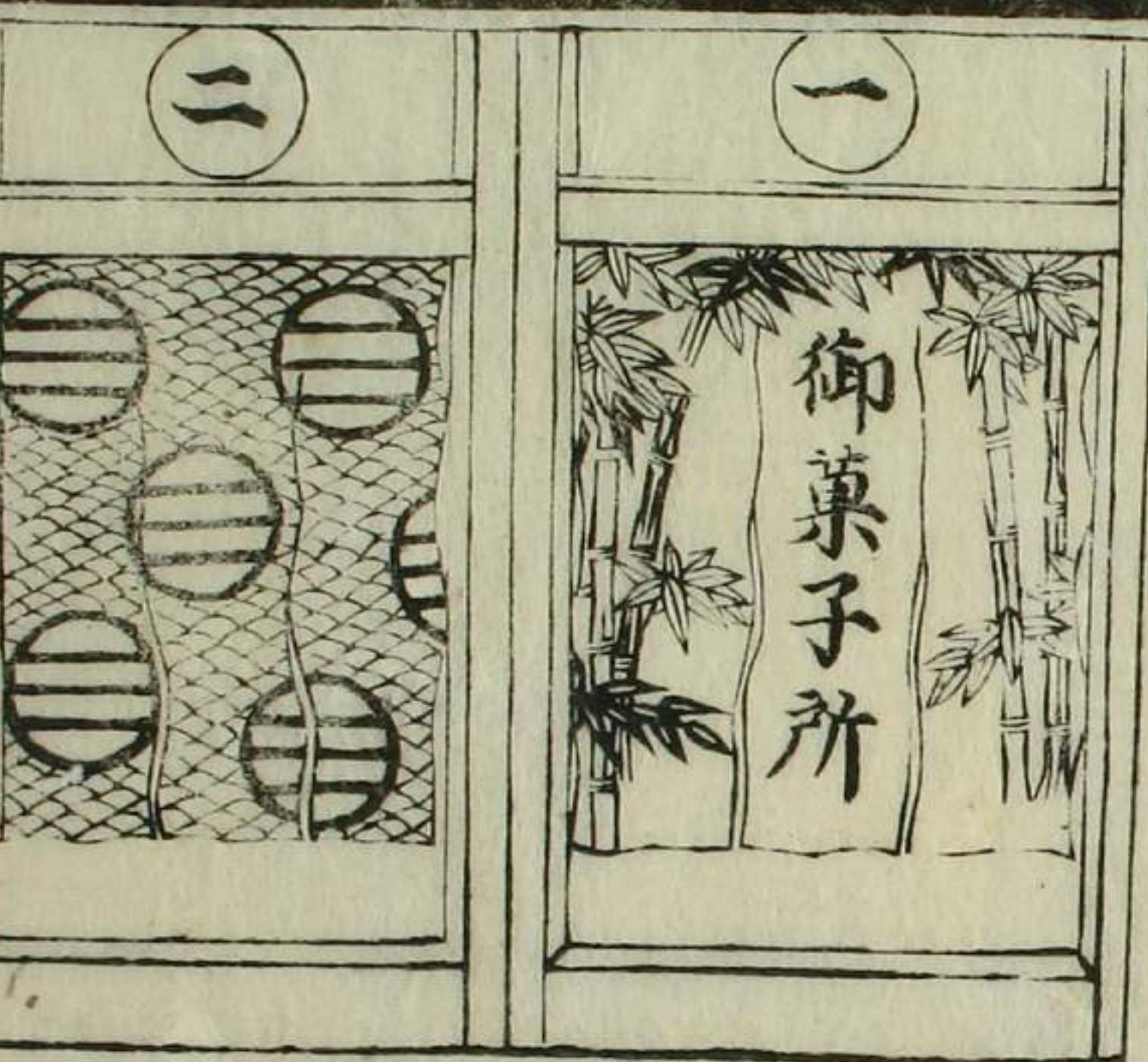


3263
4

日本承代元

回

圖解



よりとを
よりとをに付計

とく

生瀬ふかれすにあらわす

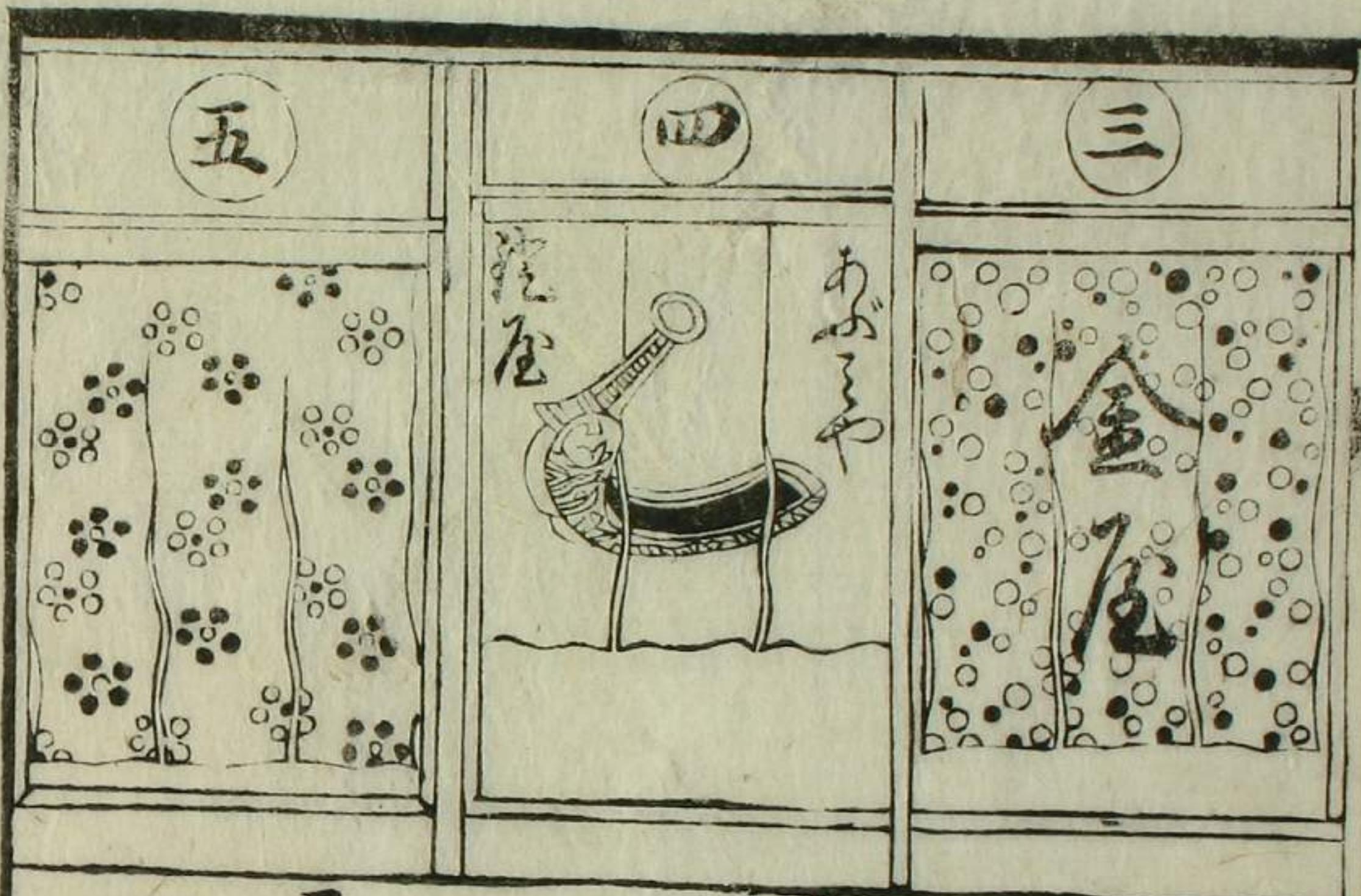
火と喰多色りとありね

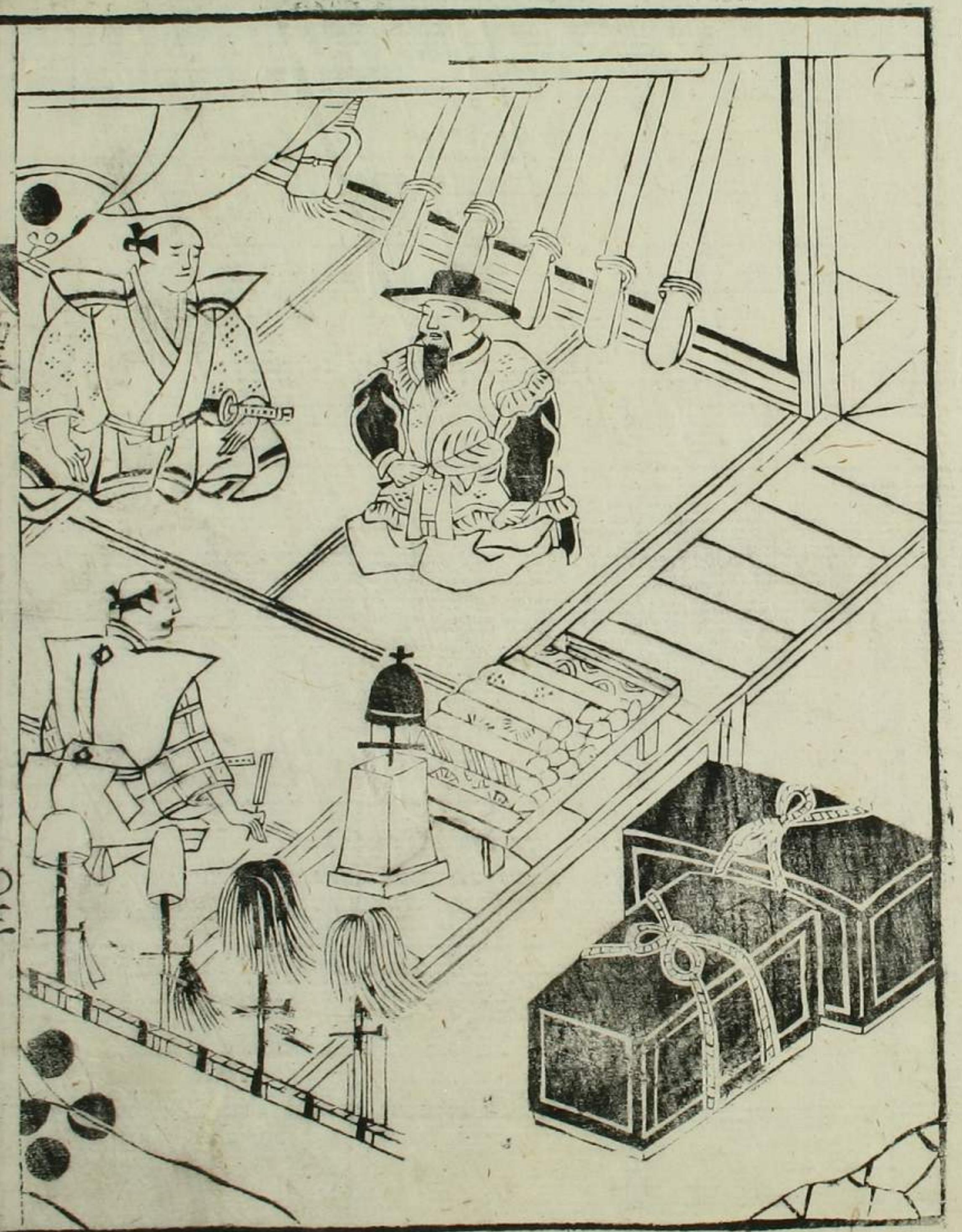
國ふのめをく周呂金の大門

おんじがくれむるみゆゑ

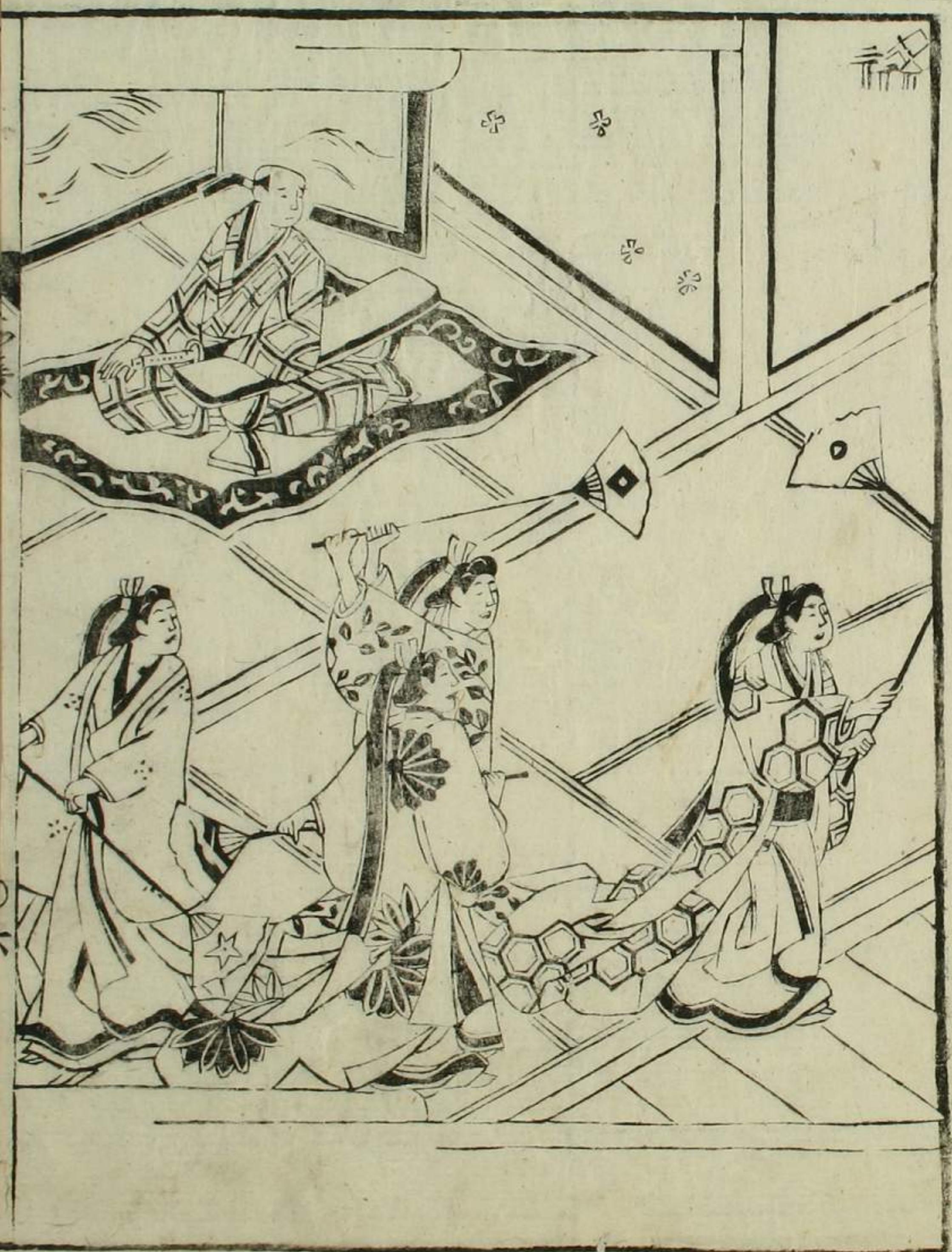
程めぐら金面の字







國事あまく大書



卷之三

卷之六



今更にそれと云ふことをやうへてゐる所はあり
ぬ。さうしておのづから思ひ出でたのであるが、
それがわざと見ゆるもやびよめてうのとくをいひ
きり。おわづかあらじゆうとくをいひきのまゝ、
てたゞの今すくけてもしりひがわのきとくでうが、おまよ
ぢうひ。まゆがまゆるゆうとくをうけり生れひのとく、おのづ
きとくをうがてもうく今すくけてうのとくをうく
きくとくをうがてもうく今すくけてうのとくをうく
きくとくをうがてもうく今すくけてうのとくをうく



万年じよのくわさうづかわらしが。うるみのまくわあくやうせ



